

4～5世紀の東アジア

【中国】 1長期の分裂→影響力の弱化→東アジア各民族が国家形成の動き

三国時代→2晋(西晋) [265～316] ☆倭の女王(壱与?)が遣使(266)

→北方民族の侵入(3五胡十六国)…晋は江南へ逃れる(東晋)

→4南北朝時代[439～589]

南朝	5 <u>宋</u> ・齊・梁・陳…漢民族国家
北朝	6 北魏など…北方民族系の王朝



【朝鮮】(北) 7 高句麗の成長→楽浪郡を滅亡[313]

(南)三韓

8 <u>馬韓</u> 諸国(約50国)→11 <u>百濟</u> が統一
9 <u>辰韓</u> 諸国(12国)→12 <u>新羅</u> が統一
10 <u>弁韓</u> 諸国(12国)→小国の分立状態が続く

「13 加羅」「14 伽耶諸国」「15 任那」(日本書紀)と呼ばれた

4～5世紀のヤマト政権 (古墳前期・中期)

4世紀 約1世紀間、中国の文献に記録がない

16画一的な古墳文化が近畿を中心に全国(東北南部～九州)に広がっていた

=17ヤマト政権(大和朝廷)が全国へ勢力を拡大しつつあった時期

5世紀(4世紀末～)

(1) 18 鉄資源や先進技術を求めて朝鮮半島へ出兵…19特に加羅諸国に強い影響を及ぼしていた

高句麗20 好太王 (広開土王) 碑文 (『日本書紀』は「任那日本府」があったとする)

子21長寿王が父の功績をたたえるために、22 丸都城(現在 中国吉林省集安市)に立てる
23 辛卯の年=24 391 年以來、倭は朝鮮へ出兵し高句麗と交戦 ※辛卯…干支の1つ

(2) 25 南朝の諸王朝に遣使・朝貢→26 冊封を受ける(高い称号を得る)……

①27 倭の五王の遣使(「28 宋書」・「晋書」・「南齊書」・「梁書」)

29 讚・珍・齊・興・武 (珍は讚の弟、興は済の子、武は興の弟)

古事記や日本書紀で時期や血縁関係から当てはまる天皇をさがすと、讚は応神または履中、

珍は反正または仁徳、済は允恭、興は安康、武は30 雄略 天皇と推定されている。

②31 478 年、32 倭王武の上表文 史料…33 「宋書」倭国伝

「祖彌(先祖)」が34 毛人(東)・35 衆夷(西)・36 海北を制圧した」と述べている

……エミシ(蝦夷)? ……クマソ(熊襲)?

ポイント 37 朝鮮諸国に対して有利な政治的地位の獲得を目指す ←……

<例> 倭王武は「使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王」を自称し、
「使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王」を獲得

☆考古学上の発見と文献資料が一致！

- ① 1978年、³⁸稲荷山 古墳[埼玉]出土³⁹鉄剣銘文が解読され、「⁴⁰獲加多支鹵大王」や「⁴¹辛亥年(471)」などの文字が確認される。
- ② この銘文の人名は「⁴²ワカタケル 大王」と読める。
 雄略天皇の本名は「大泊瀬幼武(オオハツセワカタケ)」であり、似ている。
 また、雄略は倭王武と推定されている。武も「タケル」とも読める。
 武の上表文は478年だが、稲荷山鉄剣銘文は471年で、ほとんど同じ時期である。
 →⁴³雄略天皇＝倭王武＝ワカタケル大王とみてよい。
- ③ 1973年に発見されていた⁴⁴江田船山 古墳[熊本]出土⁴⁵鉄刀銘文に「獲□□□鹵大王」とあり、読み方不明だったのが、これで明らかになった。
 →同じ大王の支配が少なくとも関東から九州まで及んでいたことになる。
- ①～③から、倭王武が上表文で述べていた「毛人(東)・衆夷(西)・海北を制圧しているという話は誇張ではないことが分かる。

※この⁴⁶大王 がヤマト政権の首長→のちの天皇と考えられる

作業 図表4 4 ページを見て位置を書き込みなさい。



- ①箸墓古墳 ②大仙陵古墳・菅田御廟山古墳 ③造山古墳 ④江田船山古墳
 ⑤埼玉古墳群(稲荷山古墳) ⑥五色塚古墳 ⑦竹原古墳 ⑧岩橋千塚古墳群
 ⑨岩戸山古墳 ⑩隅田八幡神社(和歌山県橋本市)(48°)

※干支…十干(甲乙丙丁戊己庚辛壬癸)と十二支(子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥)を組み合わせた60進法表示年・日などに使われた <例> 辛卯、辛亥、癸未、壬申(の乱)、戊辰(戦争)、甲子(園球場)

正誤問題練習 <大学入試センター1991年本試験[改]、95年追試験より>

- (1) 『宋書』倭国伝には、倭王武が宋王朝に上表文を送り、高い称号を得ようとしたと記している。
 (2) 好太王(広開土王)碑文によると、倭が新羅・百済の領有をめぐる高句麗と戦った。